インターバンクの声（2016 年 8 月 2 日）

週明けのアジア市場で何とか 102 円台を維持した円相場は、海外市場でも 102 円台前半から中盤にかけての比較的穏やかな相場展開が続いた。ニューヨーク市場の朝方、ISM（米サプライ管理協会）が発表した7月製造業景況指数の前月からの低下、原油価格や米株式相場の下落など、ドル売りを続けても良いような材料が複数あったにも関わらず、週初は様子見の一日となった。火曜日に個人消費、金曜日には雇用統計の発表が控えているので、100 円割れを攻めるのは、それらの数字を確認してからでも遅くないとの判断なのだろう。米連邦準備理事会（FRB）の年内利上げの可能性も完全に消えた訳でもなく、米国債利回りも中長期債ほど金曜日の水準から上げていたのも、利益確定の売りだけが理由ではなかったようだ。今日、アジア勢にとって米国の個人消費の発表を待つには長過ぎるが、東京時間の昼過ぎに発表される豪準備銀行（RBA）理事会の結果は格好の相場材料になるかも知れない。市場の多くが利下げを見込んでおり、豪ドル/円も先週の高値水準に比べると5円以上も低下していることもあり、利上げが見送られるようなことがあれば、一定の買戻しが期待できるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社
お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。
本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。